

2015年4月25日発行

地域と協同の 128号

研究センターNEWS

巻頭エッセイ

原点を確かめながら 生協運動の未来創造を

八木 憲一郎

コープあいち常任顧問



「協同の未来塾（以下未来塾）」をご存知ですか？ 昨年3月28日にコープこうべ・協同学苑からスタートし、2月18日に修了式を迎えた「生協職員塾」です。私はその「塾長」を仰せつかり、塾生とともに学ばせていただきました。そこで、この巻頭エッセイをお借りして、ご協力くださった方々や会員の皆様に感謝申し上げますとともに、その概要を報告させていただきます。

1年で10回の講座を積み重ねてきた未来塾は、単なる研修会ではなく、「生協運動の未来の担い手の核となる人を育みあい、学びあう同志の学び舎」という思いから始まりました。今回の第1期は向井清史先生を副塾長にお迎えし、コープあいち・コープぎふ・コープみえ・大学生協と地域と協同の研究センターで企画委員会を作り、18人の塾生の自発的な参加と学びをサポートしてきました。講座内容は、協同組合論（歴史・哲学など）・非営利セクター論・社会的関係資本論など協同組合運動・生協運動の核となるものですが、塾生の日々の仕事とは少し距離のあるテーマでもありました。しかし、杉本貴志先生（関西大学）・向井清史先生（名古屋市立大学）・小木曾洋司先生（中京大学）・中川雄一郎先生（明治大学）・兼子厚之先生他の講義や共同研究を重ねる中で、塾生の関心と視野が広がり、事前レポートや全体演習の内容が豊かになっていきました。

未来塾最終日、「原点から未来へ」のテーマで、田辺準也氏（旧めいきん生協）・水野隼人氏（旧岐阜地区市民生協）と私（旧みかわ市民生協）の創立メンバー3人の鼎談企画がありました。「それぞれの生協の原点ともいべき創設の思いや志、現代社会・生協運動の未来創造をともに考えよう」という趣旨ですが、レジェンド3人組は「40年も前の苦労話をしても…」と戸惑い気味でした。しかし、「マイナスからのスタートだった創立、協同と連帯が育てた生協の運動と事業、人こそ協同組合の財産」などと語りかけると、予定の3時間は瞬間に過ぎてしまいました。修了式の最後に「未来塾で学んだことと生協人としての志し」の塾生の発表がありましたが、「未来塾の思い・志が繋がった…」と実感できました。

NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の序盤の舞台になっている松下村塾では「志し一何のために学ぶのか」が問われ、語られています。未来塾でも、“原点を確かめながら未来に向かう価値を生み出す人育て”という使命を持って、この夏に第2期をスタートさせよう準備が始まりました。ご協力、お願いいたします。

CONTENTS

巻頭エッセイ 原点を確かめながら 生協運動未来創造を	1
三河地域懇談会フィールドワーク第二弾 南医療生協「よってって横丁」へ行きました！	2
2014年度「協同の未来塾」開講 マイスターコースも組合員理事ゼミもより充実	3
平和・協同の学び実行委員会主催 「協同っていいね～夢をかなえる協同の力～」	4
情報クリップ	5-7
企画案内・書籍案内	8

研究センター 4月の活動

2日(木) 三河地域懇談会フィールドワーク 「よってって横丁」見学会
4日(土) 平和と協同の学び実行委員会 「協同っていいね～夢をかなえる協同の力」
6日(月) 尾張地域懇談会 世話人会
9日(木) 寄付講義 スタート
10日(金) 暮らしと生産をつなぐ「もの」づくり「まとめ」の会 食と農/パネル世話人会
16日(木) 研究フォーラム 職員の仕事を考える世話人会
17日(金) 常任理事会
20日(月) 三河地域懇談会 実行委員会
24日(金) 環境/パネル浜岡原子力発電所見学会
25日(土) 第6回理事会 27日(月)NEWS編集委員会

三河地域懇談会 フィールドワーク第二弾 南医療生協「よってって横丁」へ行きました！

文責：伊藤小友美

三河地域懇談会では、「わたしたちのくらしと介護～地域で粋な古い支度を～」をテーマに学習・交流を重ねています。南医療生協の「よってって横丁」（医療・介護といやし・おいし・文化・交流・すまいのある複合施設）が完成し内覧会があると聞き、4月2日、14名の会員が出掛けました。案内して下さった南医療生協のボランティアの西澤佳子さんは、実は研究センターの会員でもあります。熱の入ったご案内でした。

1階にはカレーショップ、レストランバー、在宅診療所、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、デイケア、小規模多機能ホームなど、2階にはイタリアンレストラン、歯科、メンタルデイケア、メンタルクリニック、3階～4階には住宅型有料老人ホーム、5階～8階にはサービス付き高齢者向け住宅があります。最上階から順番に、ご案内いただきました。組合員の想いのこもった施設です。キッチンの色を決めるのにも、何度も会議を開催されたそうです。廊下には気軽に腰かけられるベンチ（収納付き）があります。部屋の長押しには、豊根の木材が使っており、ふつうの家庭にいるようなあたたかい雰囲気が漂っています。「しってうれしいよってって横丁豆知識」の札が貼られていて、<各居室にはブラケット照明と豊根杉の「なげし」を設置しています。巾木の高さや、色合い等、施設ではなく住宅に近くなるよう議論しました。>と書かれていました。共用のお風呂の一部は、浴槽が左右に動きます。片麻痺の人も入り易いように、左右どちらからも入れるようになっているのです。最新の設備とくつろげる空間が混在する「よってって横丁」、入居の方はほぼ決まっていると聞き、参加者一同、納得しました。



たくさんの方の見学者で賑わっていました



可動式の浴槽

三河地域懇談会実行委員会、振り返りをしました。「理想的な施設だと思いました。でも、一ヶ月25万円ほどかかると聞いて、限られた方の施設だと思いました。」
「もう少しこじんまりしたものがコープあいちでできるといいですね。」「花壇に<あなたの花を植えませんか>という呼び掛け看板があり、生協らしいと感じました。」「活動している組合員さんが、『私は入れないけれど、よい施設になってよかった』と言われていたと聞き、すごいと思いました。」などの感想が出されました。

参加された方から、ご寄稿いただきましたのでご紹介させていただきます。一年後の物語です。

◇ 終の住処 ◇

桜の咲き誇る南大高駅を降りると病院の並びに「南生協よってって横丁」がある。今日、自分はこの上階の「サービス付き高齢者向け住宅」に住む友人に会いに来たのだ。「二階のオープンカフェで待っている。」と彼は電話で言った。店の並ぶにぎやかな街路につながる吹抜のホールのエスカレーターで二階に上がると菜園のあるテラスにカフェはあった。「一日一日かみしめるように生きて来た……」テラスの向こうに広がる大高緑地の桜を眺めながら、ここでの一年の生活を友はしみじみと語った。彼は大病を患ってから一人暮らしが不安になり、住み慣れた一戸建の自宅を処分して、去年の春ここに入居した。「年金だけではとても足りなかった。しかしここは安心だ。周りのみんなが扶けてくれるし、いざとなれば隣は病院だ。」と笑顔で言う。文学や絵画が趣味の彼は定年後、町内会の世話をしたり、庭いじりや愛犬の散歩を楽しむにしていたが、今の生活に不自由はないのだろうか。「ここはひとつのまちとしてつくられている」と彼は言う。コミュニティで趣味を楽しんだり、みんなで話し合っ犬や猫を飼ったり、地域やテラスの再演で有機野菜や花を育て養蜂までやっている。それらを使ったオーガニックの料理がこのカフェの人気メニューなのだそうだ。「施設」としての制約を乗り越えるのはそこに暮らす人々の協同の力だ。しかし彼と似た境遇の自分は果して「土」から離れたこの高層の施設を「終の住処」として選ぶのだろうか。帰り途、駅のホームで列車を待ちながらそう問いかけてみた。

池上 ゆたか

自分はこの上階の「サー



2015. 4. 21

2014年度「協同の未来塾」開講 マイスターコースも組合員理事セミナーもより充実！

文責：事務局 大島

2014年度、地域と協同の研究センター主催で学び合いの場として「共同購入事業マイスターコース」「組合員理事セミナー」を開講し、新たに「協同の未来塾」を開講しました。その概要と受講された皆さんの声を紹介합니다。

2014年度「共同購入事業マイスターコース」は、 24名の参加で開講しました！

共同購入事業マイスターコースは、生協の固有の業態である「共同購入事業」に関わる専修の学びの場として、その担い手を育むことを目的に、各生協の要望に応え開講しています。2014年度、第6期の修了生もあわせて現在142名がマイスターとして活躍しています。2014年度も7月から2015年2月まで7回の単元を、24名の職員が受講しました。受講生の修了後レポートの一部をご紹介します。

共同購入事業マイスターコースについて振り返りのレポートから

「事前課題を通して、一人ひとりの組合員の暮らしについて考え、講義を聴く中で自分の仕事について振り返る事が出来ました。」

「コープみえの組合員さんにお越しいただいた際“今まで担当者の行動で嬉しかった事は何か？”と質問させていただき、“特別な事をしてというよりは普段、商品を受け取る時に何でもいから何気ない会話をしてくれると嬉しい”という思いを聴き、コミュニケーションの大切さをリアルな声で感じました。」

「この仕事には、たくさんの可能性があります。しかしながら私たちは、まだまだほんの一部で満足してしまっています。マイスター講習を受講した私はこの可能性をもっともっと広げていける様、まずは自らが



2014年度共同購入事業マイスターコース修了式

率先して様々な事に挑戦し、職場の仲間と共有し、さらなる改善、発展への中心となる存在である様に努力します。」

「協同の未来塾」第1期を開講しました！

「協同の未来塾」は、受講する皆さんが、協同組合・生協運動の核となる未来の担い手として活躍されるこ

とを願い、開講されました。協同組合・生協運動は、組合員の願い、地域社会の期待、そして時代の要請に応え、社会進歩、または社会変革の一翼を担うものとして発展することが求められます。

その期待に応える生協の担い手を育み合う場として、「協同組合」を理論的に学び合い、主体的に研究し合い、実践する力を育み合うことを目的に、各生協から人事の責任者が参加し企画委員会をつくり、10回の各単元を準備してきました。

第1期の塾生の振り返りの一部をご紹介します。

「協同の未来塾」振り返りから

「過去の歴史を学ぶ事は非常に貴重な経験でした。やはり自身の生協の起源を知ることで、どう自身が考えるかの軸が出来た気がしました。今までは数値ありき、他流通との競争ありきだった気がしました。毎回、日常の業務から立ち止まってみんなで考える事できた事は貴重でした。」

「個人的にはとても良い中身だったと感じています。日々の業務を考えるきっかけとなる中身でした。」

「講義の内容はどれも広く奥深く、純粋に勉強になりました！大学と地域の両生協からの参加があったことは、刺激になりました。」

新任の組合員理事19名が参加し「組合員理事セミナー」を開講しました！

組合員理事セミナーは、ぎふ・あいち・みえの各生協の新任組合員理事が参加しています。2014年度、第3期は2015年度までの2年間で、より充実した内容にして開催しています。

組合員理事セミナーの目的は ①組合員の願いに応える理事会＝ボートづくりに向けて、暮らしの実感、協働の担い手としての実感に根ざした組合員理事の固有の役割を果たすために、「組合員理事の考え合い、学び合う」場づくりを進め、そのエンパワーメントをつくり合い、理事の役割と使命を担える確信と誇りをつくり合う。 ②東海地域の3生協の組合員理事が互いに交流し合い、広い視点から生協運動における諸点を考え合い、学びあう価値を創造することです。

かつて組合員理事セミナーを受講された各生協の先輩理事のみなさんと事務局で世話人会を構成し、各回の内容や進行について相談し、ファシリテーターも担っています。

「平和・協同の学び」実行委員会主催

レポート・文責：伊藤小友美

協同っていいね ～夢をかなえる協同の力～

2015年4月4日（土）、豊橋市民センターカリオンビルにて、表記フォーラムが開催されました。

認定NPO法人ICAN（アイキャン）の吉田文さんのお話「路上の子どもの夢を叶える協同組合 パン屋設立を目指して（フィリピンでの活動紹介）」と、コープあいち顧問の高橋正さんのお話「再生エネルギーを協同組合の力で」がありました。

また「花子とハル展」も同時開催されました。昨年、NHK朝のドラマで話題になった村岡花子（赤毛のアンの翻訳者）と賀川豊彦の妻・ハルは親戚です。花子の夫とハルは「いとこ」同士にあたります。ハルは村岡家から女学校へ通ったこともあり、明治・大正・昭和の激動の時代を、自立した女性として立派に生きた二人の活躍の足跡を見ることができるパネルは、神戸の賀川豊彦記念館よりお借りしました。花子と夫徹三の熱いラブレターに見入っている方もおられました。

パン屋設立をめざして*吉田文さん**

アイキャンは1994年、ひとりの会社員がフィリピンを訪れ悲惨な状況を見て、子どもたちの生活改善に取り組むNGOとして設立されました。ひとりひとりのできることを持ち寄って社会を変えようという思いが名前にはこめられています。路上の子供たちとの活動には2006年から取り組んでいます。フィリピンには25万人もの路上の子どもたちがいます。壁も屋根もなく、ビニール袋をかぶっている路上の子供たちは一日3食とることができません。協同組合づくりをしているのですが、パン屋さんをつくるのには2つ理由があります。路上の仕事は危険が伴うので、事故、暴力などで、たくさんの子供たちが路上の仕事の中で亡くなっています。安定した収入が得られるようにしたいというのが理由の1つ目です。もう1つの理由は、パンを作るときには工程を分けることができることです。路上の子供たちは学校へ行っていないので、社会性を身につけていません。作業を分けて行うことができ、比較的簡単にできることが大事です。

「僕の人生は価値がない、いつ死んだっていい、ねずみと一緒にだ」と言った子供もいました。でも私たちが愛情たっぷりに接している中で、子どもたちの中からリーダー的な子どもが出てきました。そのリーダーを集めてパンづくりのトレーニングを始めました。学校に通っていない子どもたちは、識字教育も受けていません。計算もできません。家族から当たり前のことをならっていないので、衛生観念がありません。雑巾と布巾の違い、手洗いの大切さから教えました。人の話が聞けない、暴力をふるう、弱い子を脅す子どもたちが変わっていききました。路上の子どもたちが出したパン屋の1号店は、すごく小さくて、人が一人二人で身動きできなくなるくらいですが、これが自分達の人生を変えることになるということ子どもたちは知っています。ある子どもは、「ふつうのパン屋さんを開きたいのではない。路上の子どもがいたら、パンをあげたい。」と話してくれました。本当にやさしいとはどういうことか、フィリピンに行き彼らに会うたびに学ばせていただいています。

再生エネルギーを協同組合の力で*高橋正さん**

一昨年の秋に、ドイツの再生エネルギーの現状を視察してきました。ドイツは、福島第一原発事故を受けて、脱原発を打ち出しました。厳冬期の電力不足に備え1基だけを維持しています。

市民の風力会社第1号は、最北部、北はデンマークとの国境に位置するコーク村に1991年、発足しました。村人10人が集まり、風力発電を始め、2013年現在出力50kWの30基以上の風力タービンが稼働しています。数百人の住民が株主になり、その株式の90%以上を所有しています。政府から助成金も出ています。

最初のバイオエネルギー村はユンデ村です。道路が整備されていて、各家に全部給水管が通っています。35%は電気、55%は熱エネルギーに変換されています。発電と送電を分離することが大切です。日本でもやっとな分離が言われ始めましたが、ドイツではすでに実施されています。地域の農民が、木のチップを持ち込んで発酵させてガスを出し、各家庭の給湯器の水が温められます。CO₂の発生は、ひとりあたり年間8.2トン削減されています。地球温暖化を阻止し、自分たちのエネルギーは自分たちでつくっている村です。

「ライフアイゼン・エネルギー協同組合グロースバルドルフ」は、バイエルン州の北の端に位置します。エネルギー協同組合が、40カ所あります。地熱発電は、小さなことを裏でやってたいへん大きな効果があります。その地域で農業をすすめることができるようになったので、よそへ出て行く若者が減りました。日本でも考えていきたいことです。いくつも協同組合があって運営しています。仕組みが小さくて効率がいいのが特徴で、すばらしいシンクタンクがついています。

ドイツには市民主体のエネルギー生産を支えるさまざまな仕組みがあり、市民による資本の拠出があり、初期はほとんどボランティアな仕事に支えられています。ゲッチンゲン大学は、埋もれている主導者を見出すこと、村人たちとの個人的繋がりを作ること、全ての人に偏らない科学的情報を与えること等が成功要因としています。

情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(頒価)
<p>▶地域社会での お役立ちを目指す 生協の子育て支援</p> <hr/> <p>NAVI 2015. 4 757</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>特集 地域社会でのお役立ちを目指す生協の子育て支援 <コープのある風景> 福井県民生協 <こんにちは！生協男子ですっ！> コープふくしま・農産グループVS菅藤崇弘さん <元気な店舗の運営を学ぶ> おかやまコープ・コープ西大寺 <宅配・現場レポート> ラブコープ宅配企画 優秀担当者表彰研修会 <生協大好きママコブ山さんの 教えて！CO・OP商品> CO・OPサラダえび <☆突撃☆あなたの街の組合員活動> コープこうち <想いをかたちにコープ商品> コープきんき <私の本ナビ> コープあいち「タオルの絆」など <CO・OPニュースフラッシュ> いわて生協 生協ひろしま <明日の暮らし ささえあう COOP共済> みやぎ生協 生協コープかごしま <生協職員のための接遇・応対の基本> 第1回 連載のはじめに <この人に聴きたい> 食育コンシェルジュ 鶴岡佳則さん</p>	<p>2015年 4月 A4版 35頁 定価 350～円</p>
<p>▶ともに育つ</p> <hr/> <p>医療生協の情報誌 COMCOM 2015. 4 572</p> <p>日本医療福祉生活協同組合 連合会</p>	<p>▶特集 ともに育つ ともに学び、気付き、育つ 人と向きあう医療福祉生協 東京ほくと医療生協 清水起美子さん 姫路医療生協 黒岩勝博さん 長野県医療生協 原 健さん 医療生協かながわ 阿部 亮さん [バンビのつぶやき 28] 「迷惑」って誰のもの 店主 中根桂子 [現場のひらめき地域のひらめき 第4回] 地域密着型サービスを充実させ地域まるごとケアに挑戦 社会福祉法人協同福祉会 あすなら苑（奈良県大和郡山市） [みんなで健康づくり 第4回] みなと医療生協（愛知県）港西支部 チューブ体操 適度な運動を定期的につづける [リポート] 何より大切なのは、現場の職人が同じ方向を見て働くこと 宮大工 金剛組・匠会 / 木内組（大阪府堺市） [協同のある風景] 227 地域とつながりそこで生きる みやぎ県南医療生協</p>	<p>2015年 4月 A4版 40頁 定価 400円</p>
<p>▶韓国に学ぼう 市民の底力がつくる 互助の社会</p> <hr/> <p>社会運動 2015. 3 417</p> <p>市民セクター政策機構</p>	<p>特集 韓国に学ぼう 市民の底力がつくる互助の社会 セウォル号事件後の市民運動の新天地 エリートモデルから下層ガバナンスへ 金翼漢 協同組合都市ソウル 東アジアを変える試み 朴元淳 住民が主体となるマウルの暮らし 国家公共性からマウル公共性へ 柳昌馥 市民・民主運動の再度の活発化を 若い世代の多様な組織化と運動の継承 安陳傑 社会運動も楽しくなければいけない ひとりデモを始めた心模様 金義城 自助・共助してつくる新しい公共領域 下からの市民運動が必要な時代 趙韓惠淨 韓国の女性運動の現在地 法制度改革の達成から身の回りの権力構造の変革へ 朴奉貞淑</p>	<p>2015年 3月 A5+6版 151頁 定価700円</p>

	<p>光州型社会的経済 「民主・人権・平和」の実質化を続ける光州 民主化運動の経験と社会的経済 尹壯鉉 社会的経済にとって光州ほどの適地はない 数を増やすよりも理念・価値観の共有を 朴湘夏 人権・民主主義・平和を深める社会づくり 社会的経済を革命的に構築する政策 徐政勳 一緒に楽しい生を送る自治的な老人福祉館 高齢者主体で地域住民を巻き込む協同組合 姜渭遠 世界の多彩な協同組合（第4回） 韓国代行運転協同組合 崔瑜娜 韓国協同組合の事例（その1） 旅行の社会的企業 グッドトラベル 羅孝雨 韓国協同組合の事例（その2） 言論協同組合プレシアン 田洪起恵 包摂の対象から主体へ 貧困地域における住民の挑戦 桔川純子 内外の連帯と協力の枠組みで新しい次元へ 韓国社会的経済と国際社会的経済フォーラム 李鉉淑 「帝国」構造と韓日ナショナリズム・ジェンダー 朴裕河 女の自由を映す韓流 北原みのり メディア遊動日記（第3回） ジャーナリストの責任と評価 青木 理 商品たちの素性（第4回） 消臭・除菌剤は必要か 中野寿子 女性作家たちの声（第4回） 私の体は私のもの ろくでなし子 「外圧に抗する快感」を生きる社会 その2 空虚極まりない安倍晋三話法 大田昌国 NAMを語る（最終回） 資本主義の終りと戦争 柄谷行人</p>	
<p>▶生協の共済事業 最新情報</p> <p>~~~~~</p> <p>生活協同組合研究 2015. 4 471</p> <p>（財）生協総合研究所</p>	<p>■ 巻頭言 現場の感触 生源寺眞一</p> <p>▶特集 生協の共済事業 最新情報</p> <p>生協共済と組合員参加 江澤雅彦 生協と保険の相違 根本篤司</p> <p>コープあきたの共済事業の取り組み 倉田俊光 高橋源一 大坪省三 齊藤真吾 座談会 「生協共済の推進について」 岡田太・阿部田克美・田中隆幸・和田長太郎</p> <p>コラム1 消費者視点で考える共済 坂本綾子 コラム2 韓国の共済事業をめぐる新たな変化 崔桓碩</p> <p>■ 海外情報 コープドリアティカ(イタリア)の社会的活動報告書 宮沢佳奈子</p> <p>■ 被災地からの報告 2014年初冬・志津川事情を語る③ 佐藤俊光 高橋源一 聞き手 鈴木岳</p> <p>■ 時々再録 ピケティブームの周辺 白水忠隆</p> <p>■ 新刊紹介 内藤正典 『イスラム革命 中東崩壊と欧米の敗北』 天野春元 伊勢崎賢治 『本当の戦争の話をしよう、世界の「対立」を仕切る』 久保典子</p>	<p>2015年 4月 64頁 B5版 定価500円</p>
<p>▶買い物支援事業の あり方と運営を考える</p> <p>~~~~~</p>	<p>●巻頭インタビュー わが生協、かくありたい！ 経営再建と地域復興、組合員の目線で二つの課題に取り組む コープふくしま●専務理事 野中俊吉氏</p> <p>特集 組合員に支持される農産・産直事業をつくる</p> <p>1 生産者が安心して作り続けられる農産・産直事業を目指し、 地域や組合員と共に取り組む コープネット事業連合●生産調達管理部 農産担当部長 植野敏弘氏</p> <p>2 生産県であることの特徴を生かし組合員から支持される産直事業をめざす いわて生協●常務理事 阿部慎二氏</p>	<p>2015年 3月 B5版 79頁 定価870円</p>

<p>生協運営資料 2015. 3 282 日本生活協同組合連合</p>	<p>3 日本農業の危機と再編を前に、自分たちの力で産地の未来を切り開く 日本農業法人協会●副会長 ながさき南部生産組合●会長理事 近藤一海氏</p> <p>連載 ●全米勝ち組小売業から学ぶ ～現地レポート 最終回 ユニークな経営で成功する中小のスーパーマーケット JAC_USA ENTERPRISES INC ● 代表取締役社長 浅野秀二氏</p> <p>●宅配事業・宅配センター運営を学ぶ 第6回 行政や地域の産婦人科などと連携した子育て層へのアプローチ 生協ひろしま●無店舗事業部 運営担当課長 寺田和之氏</p> <p>● 特別企画 流通環境の変化と生協の課題を考える 拓殖大学商学部●教授 (公財)流通経済研究所●理事 根本重之氏</p>	
<p>▶厳しい環境の中でも さらなる協同を 切り拓こう</p> <hr/> <p>文化連情報 2015. 4 445 日本文化厚生農業協同組合 連合会</p>	<p>農協組合長インタビュー (15) JAあしきた「まるごと販売システム」の構築 高峰博美 農業・農協・医療 厳しい環境の中でもさらなる協同を切り拓こう 山田尚之</p> <p>院長リレーインタビュー (283) 質の高いリハビリテーション医療の提供を 黒岩 靖 農協改革の第一ラウンドをふりかえる 田代洋一 第18回厚生連医療経営を考える研究会にご参加を 東公敏 新連載 農村医学運動は世直し運動！～私の歩んできた道(1) 目の当たりに見た差別 小山和作</p> <p>平成26年度厚生連院内感染予防対策研修会に参加して 同じ目標をもった仲間を増やし協力し合うことがゴールに近づく道 高田純子 実務の中で生じた疑問を納得できるまで講師に直接確認できた 磯部貴子 感染予防対策に必要な知識と習得に実践につなげることが大事 後藤廣基</p> <p>いのち育む農業体験学習の可能性 (1) 農業実習のはじまり 川妻干将</p> <p>伊勢原協同病院の病院給食 (3) わたしの知恵袋 石井洋子</p> <p>岡田玲一郎の間歇言 (129) 社会医療法人も病床機能もその質の成果責任が求められる 岡田玲一郎</p> <p>オランダ ビュートゾルフ 持続可能な在宅ケアモデル (上) 小磯明 野の風●生きてこそ 生きていられる喜び 小坂修一 デンマーク&世界の地域居住 (71) イギリスの地域資源:エイジ・コンサーン (エイジUK) 松岡洋子 ゲーテンターク、ドイツ (VII) ドイツの老後生活 - 老後の楽しみ 鵜殿博喜 コーパプス・イルモンテ 山の上の農場、デイセンターとレストラン 小磯明</p> <p>書籍紹介 『医療介護問題を読み解く』 東公敏 線路は続く (85) らくらく 大山ケーブルカー 西出健史 最近みた映画 小さき声のカノンー選択する人々 熊谷麻紀</p>	<p>2015年 4月 B5版 80頁 文化連情報 編集部 03-337 0-2529 *注</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(✳)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

「ユニバーサル就労」調査研究会－就労支援に生協が取り組む意義

- 2015年5月22日(金)13:00～16:35
- 主婦会館プラザエフ 地下2階 会議室クラルテ(東京都千代田区六番町15番地J/R四ツ谷駅前)
- 報告(質疑応答)「研究活動の概要とその背景にある問題意識」柳沢敏勝(明治大学 商学部教授)
- ・基調報告「ユニバーサル就労とは」・・・池田 徹(生活クラブ風の村)
- ・「日本生協連の今後の取り組み」・・・山際 淳(日本生協連)
- ・実践報告①「農業分野での就労取り組み」・・・椎木修司(株)ハートコープひろしま)
- ・実践報告②「行政や民間との多様な連携」・・・本多 敬(大阪いずみ市民生活協同組合)
- ・各委員の多様な実践例の概要紹介・・・研究会事務局
- ・「生協における就労支援の意義と課題」・・・米澤 旦(明治学院大学社会学部) (16:35終了予定)

詳細→http://ccij.jp/activity/annai150417_01.html

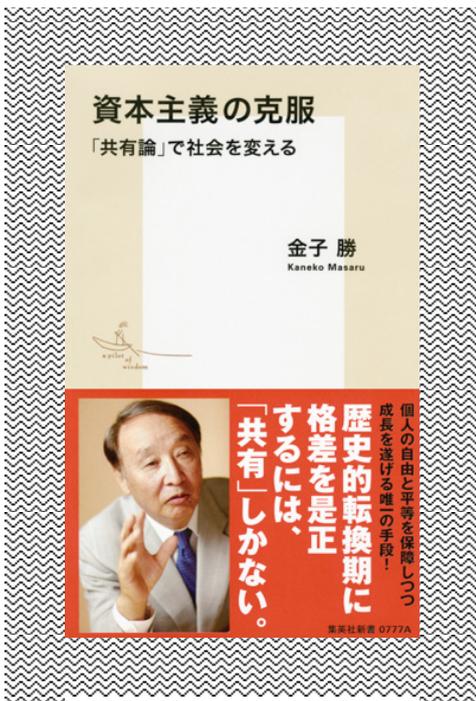
障がい、生活困窮、ひきこもり・・・、さまざまな理由から働きたくても働くことができない人々がいる。就労困難な人のために、各地の生協や関連の団体が実際にどのような支援を行っているのか。

【主催/問合せ・申込先】 公益財団法人 生協総合研究所→<http://ccij.jp/> 担当【中村・齊藤】

TEL.03-5216-6025 FAX.03-5216-6030 【共催】日本生活協同組合連合会

参加費無料

書籍案



資本主義の克服 「共有論」で社会を変える (集英社新書)

著者：金子勝 発行日：2015年03月 出版社：集英社

サイズ：新書 ページ数：204p

内容

個人の自由と平等を保障しつつ成長を遂げる唯一の手段！

歴史的転換期に格差を是正するには、「共有」しかない。

資本主義の歴史を俯瞰し、著者はその歩みを、国民国家の膨張とその衝突と捉える。その中で、戦争や大恐慌などの歴史的転換期に起きる「非線形変化」と、経済循環による「波動」をつかむことで、危機的状況にある資本主義の病理を浮き彫りにする。

税制や社会保障制度などの新たな枠組みは、今日のような歴史的転換期に更新されていく。そこに、これらの制度やルール空白が生じ、「独占」が生まれる。

「独占」に抗し、「失われた30年」とも言われる閉塞状況を打破するには、社会を変えていく原理として、制度やルールの「共有」が有効となる。個人の自由と平等を保障しつつ、新しい産業構造への転換を促す道を提示する。

集英社新書ホームページより

2015年4月25日発行(毎月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>

研究センター 5月の活動予定

1日(金) 協同の未来塾企画委員会

7日(木) 岐阜地域懇談会 世話人会

8日(金) 総会議案書発送

11日(月) 事務局会議

13日(水) 暮らしを語り合う会

15日(金) 環境パネル 世話人会

18日(月) 国際協同組合デー記念行事 準備会(愛知)

19日(火) 地域福祉を支える市民協同パネル世話人会

22日(金) 三河地域懇談会フィールドワーク「六条淵」見学会

25日(月) 岐阜地域懇談会「岐阜のつどい」明宝小川地区

26日(火) 研究フォーラム職員の仕事を考える

30日(土) 第15回通常総会・総会記念シンポジウム